

## 学校給食における食育の取組について



佐伯 欣子 議員  
(21政会・加西ともに育つ会)

**問** 学校給食の現状と課題について。

**答** 令和3年1月から、2センター方式となり、北部学校給食センターで約1,500食、南部学校給食センターで約1,800食を調理、提供しています。給食センターに配置した各2名の栄養教諭を中心に、食に関する知識や栄養、食習慣、食事マナー等に関する食育指導や食育だよりの発行を各学校で展開しています。地産地消の推進として、米は全て市内産のヒ

ノヒカリを使用し、野菜類は愛菜館や播磨農業高校、神戸大学、JA兵庫みらい等から購入しています。また、農政課と連携して市内産の食材の使用率向上に努めています。

学校給食を軸とした食農教育を進める上で、市内産の食材や市内の生産農家を意識して食材を選び、地域で農業や食の循環につながる食育を展開することが大切であると考えています。市内産の食材の調達には時期と量に限りがありますが、農政課を通じて生産農家と話し合い、食材の栽培を依頼することができました。今後も地元の生産農家とつながり、環境にも健康にも配慮した地元野菜を学校給食に取り入れるなど、食育の取組を拡充したいと考えます。

**問** 令和3年度の食育の取組及び計画について。

**答** 4月から、学校教育課に給食係を設置し、食育専門員を配置しました。生産農家の訪問や給食食材への地元産野菜の利用について協議しています。また、今年度は教職員に加え調理員にも食育への理解を高めてもらおうと、食育をテーマにした教育講演会の開催を予定しています。令和3年は、加西市ならではの食育の取組が本格的に始まる最初の年にしたいと考えます。

**問** 各学校で食育について取り組んでいる事例は。

**答** 各学校を栄養教諭が訪問して食育の指導をしたり、子供たちが考えた給食メニューが実際に並ぶこともあります。また、給食メニューの食材を提供した生産者を紹介するなど、食に関する意識を高める取組をしています。

## 人口増対策について



高見 博道 議員  
(令和新風加西)

**問** 地域を担っていく人が減ることについて、ある程度の人口がなければ、交通の便や福祉など様々なところに関係してきますので、人口増対策は引き続き取り組んでいただきたいと思えます。市長の任期も残り2年となりますが、人口増の目標を今後も掲げていくのか、また違う目標設定とされるのか。改めて市長に伺います。

**答** (市長) 3期目が半分過ぎ、市長に就任して10年が過

ぎたタイミングで、令和2年国勢調査の速報値が出ました。これまでやってきた施策に全く意味がなかったとは言えない数字であると思っています。

しかしながら、政治家としての目標は、5万人都市の再生を引き続き持ち続けていきたいと思っています。5万人都市再生について、地方都市として自立し、また持続可能な都市であり続けるためには、5万という数字は大変重要であるという思いを持っています。その意味で、この10年間の全ての施策は、人口が増えるようにという思いでやってきました。

私自身は、民生安定が市としても自分の施政としても一番重要であると思っています。民生安定と直接つながらないような、例えば地域活性化拠点施設や風土記事事業も、大きな視点で見れば当然民生安定につながると考えていま

す。人が増えていく地域をつくるには、市の総合的魅力を高めていく、加西市といえば何々と言われるような、ブランドをたくさん打ち立てていくことが必要であると思っています。その意味で、今あらゆることに挑戦しているところです。若い女性をさらに意識して、加西市に住もうと思ってもらえるような施策を強調していくことや、他市に先駆けて魅力的な施策を打ち出すことも必要ではないかと思っています。国勢調査の中身をしっかりと分析して新たな施策を展開できるよう頑張りますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

### ■その他の質問項目

- ・加西インター産業団地について
- ・加西インター周辺圃場整備について
- ・兵庫県知事選挙について